

令和6年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立岡本北小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和6年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和6年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 68人

② 算数 68人

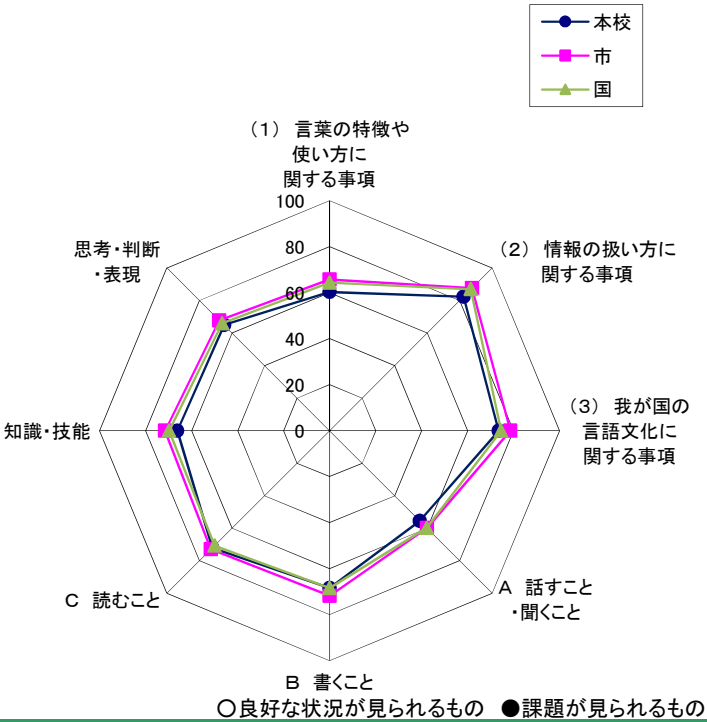
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立岡本北小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況
【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使いに関する事項	60.3	65.7	64.4
	(2) 情報の扱いに関する事項	82.4	87.6	86.9
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	73.5	78.6	74.6
	A 話すこと・聞くこと	55.4	59.9	59.8
	B 書くこと	68.4	71.8	68.4
	C 読むこと	72.1	72.9	70.7
観点	知識・技能	66.2	71.5	69.8
	思考・判断・表現	64.9	67.8	66.0
	主体的に学習に取り組む態度			



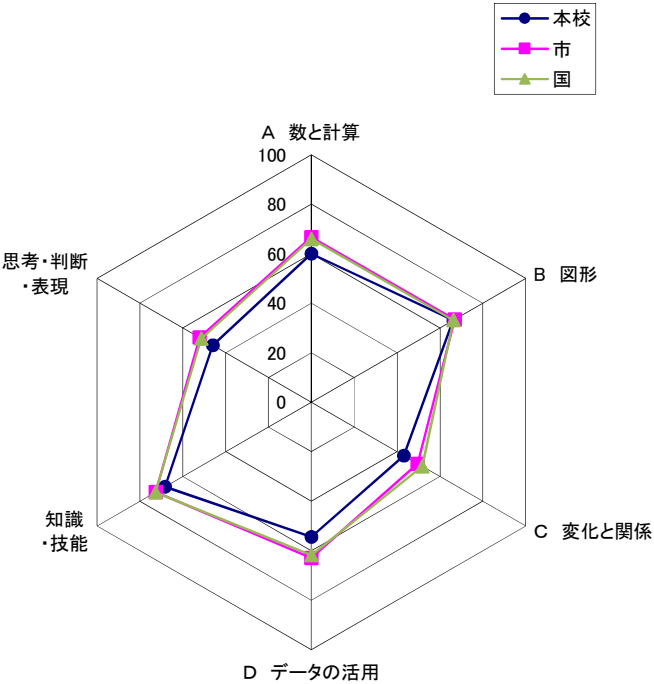
★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使いに関する事項	平均正答率は、全国の平均正答率よりやや低い。 ●「話し言葉と書き言葉の違いに気付く」についての設問の平均正答率は72.1%で、全国の平均正答率を3.8ポイント下回っている。 ○●「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う」における2つの設問の平均正答率は、「競技」については42.6%で全国の平均正答率とほぼ同じであったが、「投げる」については69.1%で、全国の平均正答率を6.9ポイント下回っている。 ●「文の中における主語と述語の関係を捉える」についての設問の平均正答率は57.4%で、全国の平均正答率を4.9ポイント下回っている。	・授業中、自分の考えを記述する際には、要点をしぼり、より分かりやすい表現になるように指導する。また、文末表現にも着目させることで、話すときと書くときの表現の違いに気付かせ、使い分けができるようにする。 ・既習の漢字を確実に習得できるように、反復練習や確認テストを定期的に行いながら、定着を図る。 ・文章を読む際は、文中の主語と述語の関係を捉えたり、指し示す言葉を使って文を分けたりする活動に取り組みせ、文章構成を正しく理解できるようにする。
(2) 情報の扱いに関する事項	平均正答率は、全国の平均正答率よりやや低い。 ●設問は、「情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使う」のみで、平均正答率は、全国の平均正答率を4.5ポイント下回っている。	・国語の授業では、人物同士の関係や心情の変化を捉えるために、人物関係図に表す活動を取り入れる。また、総合的な学習の時間にウェビングマップを作成して語句同士をつなげる活動なども取り入れる。語句と語句の関係性が分かるように、関係する語句を丸や四角で囲んだり、線で結んだりするなどして、視覚的に捉えられやすい課題を取り入れ、表し方を理解できるようにする。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は、全国の平均正答率よりやや低い。 ●設問は、「日常的に読書に親しみ、読書が自分の考えを広げることに関与できたりすることができる」のみで、平均正答率は、全国の平均正答率を1.1ポイント下回っている。	・学級文庫や図書室の様々な種類の本に触れ、読書への関心を高める。また読書記録を活用し、自分が読んだ本について振り返られるようにする。日常生活が忙しくなる高学年は学校図書館に行く機会が減りがちだが、朝の学習の時間や国語の授業で定期的にご利用するなど、読書の機会を意図的に設け、自分の考えを広げることにつなげていく。
A 話すこと・聞くこと	平均正答率は、全国の平均正答率よりやや低い。 ○「目的や意図に応じて日常生活の中から話題を決め、伝え合う内容を検討する」についての設問の平均正答率は63.2%で、全国の平均正答率を0.7ポイント上回っている。 ●「資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫する」についての設問の平均正答率は50.0%で、全国の平均正答率を2.9ポイント下回っている。 ●「目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討する」についての設問の平均正答率は52.9%で、全国平均を10.9ポイント下回っている。	・国語の授業だけでなく、総合的な学習の時間などでも必要な情報を集め、そこから目的に合った内容を整理し、みんなに分かりやすく伝えるために図やキーワードを用いて話すなど、「話の目的は何か」「周囲に伝えたいことは何か」などを、考えながら伝えられるよう、意識付けを図る。 ・自分の考えを整理し、まとめる手立てとなるように、話し合いの際は、話し手と自分の考えを比較して共通点や相違点を整理したり、共感した内容や納得した事例を取り上げたりするように促す。 ・問いに対して自分の意見をまとめたり、学習を振り返って話し合ったりする機会を多く設定し、様々な視点から検討を重ねて、自己の考えを広げられるようにする。
B 書くこと	平均正答率は、全国の平均正答率と同じである。 ●「目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にする」についての設問の平均正答率は、全国の平均正答率を2.4ポイント下回っている。 ○「目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する」についての設問の平均正答率は、全国の平均正答率を2.2ポイント上回っている。	・「誰に何を伝えたいか」や「どの資料を使うと目的や意図につながるか」など、中心となる自分の考えを基にした内容となるように、目的意識を明確にした課題を取り入れる。 ・作文の学習では、いきなり作文に取り組ませるのではなく、ウェビングマップの作成や内容を箇条書きで並べる活動を取り入れ、自分の考えを整理する力を高めていく。 ・語句と語句の関係性が分かるように、関係する語句を丸や四角で囲んだり、線で結んだりするなど、図示することで、視覚的に捉えられやすい課題を取り入れる。
C 読むこと	平均正答率は、全国の平均正答率よりやや高い。 ○「登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉える」についての設問の平均正答率は73.5%で、全国の平均正答率を6.6ポイント上回っている。 ●「人物像を具体的に想像する」についての設問の平均正答率は67.6%で、全国の平均正答率を4.9ポイント下回っている。 ○「人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりする」についての設問の平均正答率は75.0%で、全国の平均正答率を2.4ポイント上回っている。	・本の紹介や読み聞かせなどの機会を設けるとともに、図書室の利用を積極的に行い、本に親しみながら様々な文章にふれる機会を設ける。 ・本文や問題文で内容の要点を押さえ、本文の中から問われている事柄を見つけ出して整理することができるよう、キーワードに印を付けるなど根拠となる文章を明確にする指導を行い、読み取る力の向上を図る。 ・読み取った文章を基にして、その内容を説明したり、読んで考えたことを伝え合ったりする言語活動を適宜取り入れる。

宇都宮市立岡本北小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況
【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	60.0	66.7	66.0
	B 図形	66.2	66.9	66.3
	C 測定			
	C 変化と関係	43.1	49.6	51.7
	D データの活用	54.4	62.9	61.8
観点	知識・技能	68.3	72.6	72.8
	思考・判断・表現	46.0	52.2	51.4
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	平均正答率は、全国の平均正答率より低い。 ○「計算に関する性質を活用して、計算の仕方を考察し、求め方と答えを式や言葉を用いて記述する」についての設問の平均正答率は58.8%で、全国の平均正答率を1.9ポイント上回っている。 ●「除数が小数である場合の除法の計算をする」についての設問の平均正答率は57.4%で、全国の平均正答率を12.7ポイント下回っている。 ●「問題場面の数量の関係を捉え、式に表す」、「数量の関係を、□を用いた式に表す」についての設問の平均正答率は、それぞれ57.4%と83.8%で、どちらも全国の平均正答率を4.7ポイント下回っている。	・朝の学習や家庭学習において、計算ドリルやAIドリル等を繰り返し行うなど、基礎的な計算力を高める学習活動を継続する。 ・文章問題等に取り組む際に、じっくりと考える時間を設けるとともに一文ごとに場面を整理させ、問われていることや文章の内容を正しく読み取り、立式する力を身に付けられるようにする。また、立式に至るまでの過程を説明できるよう指導する。
B 図形	平均正答率は、全国の平均正答率とほぼ同じである。 ○「角柱の底面や側面に着目し、五角柱の面の数とその理由を言葉と数を用いて記述する」についての設問の平均正答率は79.4%で、全国の平均正答率を7.4ポイント上回っている。 ●「直径の長さや円周の長さ、円周率の関係」についての設問の平均正答率は67.6%で、全国の平均正答率を3.7ポイント下回っている。	・図形の性質を再確認し、公式等を設問に応じて活用できるよう演習問題などに取り組ませる。 ・図形についての感覚を豊かにするため、必要な場面においてデジタル教科書やタブレット端末を適切に活用する。
C 変化と関係	平均正答率は、全国の平均正答率より低い。 ●「道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述する」についての設問の平均正答率は17.6%で、全国の平均正答率を13.4ポイント下回っている。 ●「速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察する」についての設問の平均正答率は61.8%で、全国の平均正答率を8.2ポイント下回っている。	・速さ、道のり、時間の関係を捉えられるよう、1つの場面の式から、別の2つの式が作り出せること等を押さえる。 ・児童が学習においてつまずく課題を想定し、関連するプリント類やAIドリル等を活用して、個に応じて学習に取り組める場を設定する。 ・問題を解決するために、既習の何を用いてどのように処理するとよいのかを適宜確かめながら自力解決に取り組む場を設定するとともに、内容の理解や定着を図るため、振り返りの場を適切に位置付ける。
D データの活用	平均正答率は、全国の平均正答率より低い。 ●「折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを言葉と数を用いて記述する」設問の平均正答率は35.3%で、全国の平均正答率を8.7ポイント下回っている。 ●「示された情報を基に、表から必要な数値を読み取って式に表し、基準値を超えるかどうかを判断する」についての設問の平均正答率は35.3%で、全国の平均正答率を14ポイント下回っている。 ●「円グラフの特徴を理解し、割合を読み取る」についての設問の平均正答率は76.5%で、全国の平均正答率を4.3ポイント下回っている。	・身近な場面におけるデータ処理の課題や探究的な活動を設定し、データの傾向や特徴を捉える統計のよさや有用性に気付けるようにする。 ・授業者が提示する内容だけでなく、自分たちで課題を設定したり、収集したデータを表やグラフを用いて分析したりする活動を実施するなど、児童にとって解決の必然性のある学習課題を取り入れる。

宇都宮市立岡本北小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「友達関係に満足している」の肯定的回答の割合は92.9%で、全国の平均をやや上回っている。また、「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる」の肯定的回答の割合は84.5%で、全国の平均を大きく上回っている。引き続き、教育相談の機会やいじめゼロに向けた取組の機会を利用し、児童一人一人が安心して生活できる環境を整えていく。

○「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思う」の肯定的回答の割合は85.9%で、全国の平均を上回っている。本校の重点目標の一つである「協働的な態度の育成を目指した授業づくり」に取り組んできた成果であるといえる。引き続き、目的を明確にした話し合い活動等を工夫し、一人一人が主体的に学んでいけるようにする。

○●「学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」について、「1時間以上2時間より少ない」と回答した児童の割合は39.4%で全国の平均を上回っているが、「2時間より多い」と答えた児童の割合は12.6%で全国の平均を下回っている。また、「1時間より少ない」と回答した児童は47.9%で、全国の平均をやや上回っている。半数以上の児童が家庭学習を習慣化できているものの、学年相応の学習時間を確保したり、じっくりと時間をかけて学習したりすることには課題が見られる。家庭学習への取り組み方について、指導の改善を図っていく。

○「5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」について、「ほぼ毎日」「週3回以上」と答えた児童の割合は87.3%で、全国の平均を大きく上回っている。また、「5年生までの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる」の肯定的回答の割合は93%で、全国の平均を大きく上回っている。これは、本校の重点目標の一つである、「一人一台端末、ICTを活用した授業展開の工夫や地域教育資源や教育力を有効活用した学習指導の充実」に取り組むことにより、児童の一人一台端末の活用力が向上してきた様子がうかがえる。引き続き、一人一台端末の効果的な活用を推進していく。

○「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる」の肯定的回答の割合は94.3%で、全国の平均を大きく上回っている。「主体的に考え学びを広げ深める児童、協働的な態度の育成を目指した授業づくり」に取り組む、課題解決能力が向上してきたと考えられる。引き続き児童が主体的に学びを進められるよう、日常生活との関連を図るなど、課題設定の工夫をしていく。

○「国語の授業で、違う点や似ている点を意識したり、図で示したりしながら、情報を整理している」の肯定的回答の割合は91.6%で、全国の平均を大きく上回っている。児童の一人一台端末等の利用を含む情報の活用力の向上や、学びへの協働的な態度の育成が進んでいる様子がうかがえる。

○「自然の中や日常生活、理科の授業において、理科に関する疑問を持ったり問題を見いだしたりすることがある」の肯定的回答の割合は95.8%で、全国の平均を大きく上回っている。授業のみならず、実生活の中においても理科に関する興味関心が高まっている様子がうかがえる。児童の学びへの意欲を生かし、様々な学習活動等の充実を図れるようにしていく。

宇都宮市立岡本北小学校（第6学年）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
「宇都宮モデル」を踏まえた授業改善の推進と創意工夫した家庭学習の習慣化	「宇都宮モデル」を意識した授業を構成するとともに、「授業改善チェックリスト」を定期的に活用し、授業力と学級経営力の向上を図っている。 家庭学習を必須の課題と自主学習の二本立てとし、基本的な学力の定着と家庭学習の習慣化、学習意欲の向上を図れるようにしている。	宇都宮モデルの授業実践に関連する各設問への肯定的回答の割合は、ほとんどの項目で県や国の平均を上回っている。宇都宮モデルを踏まえた授業構成が定着した様子がうかがえる。しかし、学習内容の定着には課題が見られ、基本的な知識・技能を身に付けるための取組に改善の必要がある。 平日や休日の家庭学習について、1時間未満と答えた児童の割合が、県の平均をやや下回っている。児童の家庭学習への意識や、課題の与え方等に課題が見られる。
主体的に学び考えを広め深める児童、協働的な態度の育成を目指した授業づくり	児童が主体的に取り組める課題を設定し、各教科のねらいを達成に向けて、グループや学級全体での協働的な話し合いを取り入れた授業づくりを進めている。 振り返りの時間を充実させ、学習を自己調整し、学びを次の学習に繋げ、生かすことのできる児童の育成に努めている。	「学級の友達と話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりする」や「自分の考えをまとめる活動を行っていた」等への肯定的回答の割合は、県や国の平均を大きく上回っている。児童が安心して話し合いに参加し、学びの充実感を得られる機会が増えている様子がうかがえる。 「学習した内容について、分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている」や「授業で学んだことを次の学習や実生活に結び付けて考えたり、生かしたりすることができる」への肯定的回答の割合は、県や国の平均を大きく上回っている。振り返る活動が定着した様子がうかがえる。引き続き、振り返りの時間の充実を図れるようにしていく。
1人1台端末、ICTを活用した授業改善の工夫や地域教育資源や教育力を有効活用した学習の定着	タブレット端末の日常的な利用を推進し、活用方法についての情報交換と改善を図りながら、児童の学びの充実を生かせるようにしている。	PC・タブレットなどのICT機器の活用に関する設問への肯定的回答の割合は、全ての項目で県や国の平均を上回っている。タブレット端末の利用頻度が向上し、学習における効果的な活用が進んでいる様子がうかがえる。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
各教科における基礎・基本となる知識・技能の定着	学習内容の定着を図る復習の充実や読書の推進	中学校での学習を見据え、各教科の重要語句や事象、計算等について、朝の学習や家庭学習等で計画的に復習を行い、基礎・基本的な知識・技能を定着できるようにする。 文学作品の読書を推進する日を設けるなど、日常の読書の質の向上を図る。